

小中連携道徳通信 4号

発行者：江田島中学校区 道徳教育推進リーダー 川中 健太

◎多様で効果的な道徳の指導方法について

◆道徳振り返りシートの活用

現在、切串小学校では、評価の視点を明確にした授業を行い、授業改善につなげるため、授業の前に道徳振り返りシートを作成していただき、それを基に授業を行っています。

～切串小学校の先生方の声～

- 視点を明確にすることで、授業の軸がぶれることがなくなった。(以前は内容項目のずれがあった)
- 見取りの観点が明確になることで、児童の見取りがしやすくなった。それにより、学習状況の評価もしやすくなっている。
- 発問と評価が一对になっているのがよい。一つひとつの発問を、「自分との関わりの中で考えさせるのか」「多面的・多角的に考えさせるのか」意図が授業者の中で明確になり、児童の発言や記述に対して肯定的な声掛けができるようになってきた。

道徳振り返りシート 2年-②
 主題名：せかいの なかま
 教材名『タヒチからの 反だち』

＜ねらい＞
 タヒチから来たアイトと交流を通して仲よくなり、友達になれた「ぼく」の気持ちを考えることを通じて、他国の文化や生活に親しもうとする心情を育てる。

＜教材について＞
 「ぼく」のうちにタヒチからアイトがやってきた。初めはどう接してよいかわからなかった「ぼく」だが、すぐに打ち解けることができた。アイトからタヒチの絵はがきを見せてもらった「ぼく」は、アイトが暮らすタヒチのことをもっと知りたくなる。アイトと過ごしたのは1週間にも満たなかったが、「ぼく」はアイトとの別れをさびしく感じ、今度は自分がタヒチへアイトに会いに行きたいと思う。

④アイトがはじめて「ぼく」のうちにやって来たとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。

【評価①】観点【①-ア：日本語を話せない他国の人と関わりをもつことへの「ぼく」の不安な気持ちに気付いている。】

児童の反応
 ・不安（言葉が分からないから）。
 ・どうやって友達になっただらいいのかな。
 ・日本語を教えてあげたい。フランス語を知りたい。

④アイトからタヒチの絵はがきを見せてもらったとき、「ぼく」はどんなことを思ったでしょう。

【評価②】観点【①-ア：タヒチのことをもっと知りたい、アイトから教えてもらいたいと思っている「ぼく」の気持ちに共感している。】

児童の反応
 ・もっとタヒチのことを知りたい。
 ・日本のことを教えてあげたい。
 ・すごいな、行ってみたいな。

④また外国の友達が来たら、どうしたいと思いますか。

【評価③】観点【①-イ：自分たちの体験を振り返り、他国の文化や生活について思いを深めている。】

児童の反応
 ・一緒に日本の遊びをする。
 ・日本語を教える。

良かった点
 導入で、タヒチの写真や動画を提示し、感想を聞くことで、児童を教材の世界に入り込ませることができた。授業者が、「つなげる」「広げる」「深める」を意識し、「～さんの考えと似ている人はいるかな。」「～さんの考えについて、みんなはどう思うかな。」「～さんの考えについて、もう少し詳しく話して。」などの発問を行い、互いの意見を比較させて考えさせていくことができた。中心発問を開始 20分に収め、終末でノートに記述したことを学級全体で交流する時間を取ることで、児童の言葉で本時をまとめることができた。本時で設定した After の姿（外国についてもっと知りたいな）を概ねの児童が達成することができた。

改善点
 児童同士の対話が少なかった。授業者が、「つなげる」「広げる」「深める」を継続して意識し、「～さんの考えと似ている人はいるかな。」「～さんの考えについて、みんなはどう思うかな。」「もう少し詳しく話して。」などの発問を行い、互いに意見を出し合える集団にしていきたい。

教材名

ねらい

教材のあらすじ

【評価の視点】

- ①自分自身との関わり [ア～エ]
- ②多面的・多角的な見方 [オ～キ]
- ③自己の生き方を見つめる [ク～ケ]

何を、どの場面で、どのような方法で？

成果と課題

◆座席配置の工夫

9月1日(火)切串小学校1年生の授業では、児童同士の顔が見える座席配置になるよう工夫をされていました。児童同士、互いの顔が見える座席配置にすることで、互いの表情や身振り、手振りを見て話す・聞くことで互いの考えが伝わりやすくなります。さらに、授業者の松岡先生は、「～さんの考えと似ている人はいるかな。」「～さんの考えについて、みんなはどう思うかな。」「もう少し詳しく話して。」など「つなげる」「広げる」「深める」を意識した発問を行い、互いの意見を比較させることを意識しておられました。意見を出し合うためには、座席配置の工夫だけでなく、教師が子どもの意見を「つなぐ」ことを意識することも大切です。

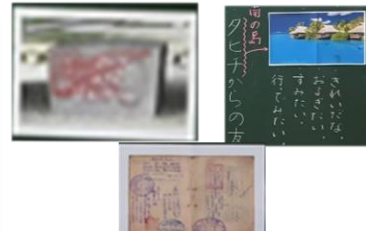


◆導入の工夫


導入では、子どもが資料の世界に入れるよう、意識付けや方向付けを行います。実物の写真、教師の演技、アンケート提示などによる方法があります。いずれにしても、情報過多にせず、選り抜かれた情報で想像を膨らませたり、問題意識を持たせたりすることが大切です。



【教師による演劇】



【実物の写真を活用】



【事前アンケートを活用】

◆ICTの活用

9月4日(金)江田島中学校2年生の授業では、板書時間を短縮するためにICT機器を活用しました。ICT機器を活用し、板書時間を短縮したことで、中心発問や終末でノートへの記述の時間を長く確保し、終末では記述内容を学級全体で振り返る時間を確保することができました。



◆終末の工夫

終末は、ねらいにある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につながる段階です。方法は、教師による説話(説教や押し付けにならないよう留意、願いとして語り伝える姿勢)や、ノートやワークシートに学習を通して気付いたことや新たに分かったことをまとめるといった方法があります。



【偉人の言葉を活用して】



【ノートへの振り返り】



【子どもの言葉でまとめる】